

日本の国土は、世界的に見ても地殻変動が激しく、また火山活動や浸食によって、長期的には「土地の変化」が激しい国の一つの言えます。国土の測量は非常に重要で、その基準になっているのが「三角点」と「水準点」です。地形図の記号では三角点が△、水準点が□です。GPSなどの電子測量、航空機や人工衛星による測量が盛んになった現在でも、これらの基準点は国土測量の基本になっています。

そのうち水準点は、東京湾の平均海水面からの高さを基準に、土地の高さを正確に測量する為に存在します。国土地理院が設置・管理しています。三角点が山の山頂など、見通しの良い場所に設置されているのに対し、水準点は全国の主要な道路沿いに石柱や金属板で接地されています。日本水準原点（千代田区永田町）・基準水準点・一等水準点・二等水準点・三等水準点を合わせると、全国で2万か所以上あります。

先日、根府川駅（東海道線）の近くの国道脇に、水準点の石標を発見しました。しかも「一等水準点」と書いてあります。この根府川の一等水準点は、「標高 33.8644 m」というのが最新の測量結果だそうです。実に「0.1mm単位」まで正確に数値が維持されていることに驚きました。

（2025年4月下旬／神奈川県小田原市根府川）

